

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大蔵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校3年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	問題形式において、「記述式」では正答率が高く、「選択式」、「短答式」では、正答率が低下する傾向が見られた。「書くこと」に関する問題で、正答率が高かった。
	よくできた問題	「ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える」問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	「表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する」問題の正答率が低かった。表現の技法についての理解に課題がある。
数学	全体的な傾向や特徴など	問題形式において、「記述式」では正答率が高く、「選択式」、「短答式」では、正答率が低下する傾向が見られた。「数と式」「図形」領域の問題で、正答率が低かった。
	よくできた問題	「目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する」問題の正答率がかなり高かった。
	努力が必要な問題	「差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する」問題や、「ある偶数との和が4の倍数になる数について予想した事柄を表現する」問題の正答率が低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	問題形式において、「選択式」では正答率が高く、「短答式」では正答率が低下する傾向が見られた。「粒子」を柱とする領域で正答率が高く、「エネルギー」を柱とする領域で正答率が低かった。
	よくできた問題	「液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する」問題の正答率がかなり高かった。
	努力が必要な問題	「日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する」問題の正答率が低かった。静電気に関する知識及び技能を活用することに課題がある。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」生徒の割合は増加しており、「互いを認め合い、挑戦する生徒」を目指して教育活動を実践している成果が表れている。</li> <li>・「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合は増加しているが、さらに体験活動の充実等を図っていく必要がある。</li> <li>・普段(月曜日～金曜日)、ゲームや動画視聴をする時間が2時間以上の生徒の割合が多く、家庭学習の充実や読書習慣の定着を図ることが課題である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の中でタブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと思う」と回答した生徒の割合は高く、各教科の授業や総合的な学習において、効果的にICT機器を活用したり、ドリルアプリを日常的に活用する場面を設定したりした成果が表れている。今後、さらに教員・生徒双方のタブレット活用のスキルの向上やICT機器の効果的な活用を図っていきたい。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段(月曜日～金曜日)については、「自主学习ノート(蔵中ノート)」の取組や、各教科の課題提出徹底の取組等により、1日当たりの勉強時間が増えてきた。だが、土曜日や日曜日などの学校が休みの日の勉強時間は依然少ない状況である。「週末課題」の取組等、補充学習を充実させ、さらに家庭学習習慣の定着を図っていく。</li> </ul>
---